

岩手県立大学社会福祉学部

2026 年度 第 1 回 研究例会

実施日：2026 年 7 月 22 日@社会福祉学部棟 201 講義室

1. 報告者：准教授 木村泰博

報告テーマ：認知行動療法にもとづく心理支援の実践研究－双極症Ⅱ型に対する実践を例に－

【報告要旨】

私はこれまで臨床心理学領域での実践研究を行ってきた。今回の報告では、双極症Ⅱ型に対する心理支援について行った実践研究について報告を行った。

双極症Ⅱ型は軽躁エピソードと抑うつエピソードを特徴とする疾患であり、基本的には薬物療法による治療が中心となる生物学的素因の強い疾患とされている。双極症Ⅱ型では、抑うつが長く続くことでさまざまな社会生活に影響が生じる。一方で、その治療についてはエビデンスが不足しており、これまで報告されている心理社会的アプローチも限られている。このような現状に対し、私が行った 3 名の双極症Ⅱ型患者に対する認知行動療法例について報告した。いずれも抑うつエピソード中であり社会生活への困難を抱えていたものの、認知や行動の変化によって気分をコントロールするに至った。少数症例という限界はあるものの、認知行動療法に基づく支援が薬物療法の補助として有益である可能性について述べた。

2. 報告者：講師 安西美咲

報告テーマ：これまでの実践と研究と、これから

【報告要旨】

今回の報告では、これまで取り組んできたソーシャルワーク実践と、それに関連して進めてきた研究について紹介した。

一つ目は、東日本大震災の被災地域における実践である。仲間と共に地域での生活を支えてきた住民の姿に着目し、被災による喪失や悲嘆を経験しながらも、なぜ地域のために力を発揮し続けることができるのかという問題意識から、「レジエンス」に関する研究を行ってきたことを紹介した。

二つ目は、社会福祉協議会の権利擁護事業における実践である。本人の自己決定権や愚行権の尊重と、本人の最善の利益の追求との間で生じる倫理的ジレンマを抱えてきた経験を踏まえ、「意思決定の支援」に関する博士論文の内容を紹介した。具体的には、「自己決定」と「意思決定」の概念を問い直した理論的検証について紹介するとともに、その知見を基に実証的研究を実施したことを報告した。

最後に、意思決定の支援に関する今後の研究課題と展望について述べた。